

にっせい農事にゅーす

(第470回) 日星コーポレーション株式会社

アグロ部 (054-263-2860)

1月は年明けから平年より気温が低い日が続きましたが、中旬は気温が高まり冬の寒さの緩みを感じられました。しかし、下旬は強い寒波の襲来により気温が低下し全国的に寒い日が続きました。2月は4日が立春で、暦の上ではもう春ですが、気象庁の1か月季節予報では2月前半は平年に比べ気温の低い状況が続き、春の到来は遅くなりそうです。しかし3月は気温が平年より高くなる予想で、一気に春がやってきそうです。それに伴い、イチゴやトマトなどの施設栽培の作物をはじめ、チャやみかん等の露地作物でも病害虫の活動や発生が増加してくることが予想されます。常日頃から作物の生育を観察し、病害虫の発生を早めに見つけて適切な対策を行いましょう。我が社では、毎年、水稻、茶、みかんの防除作業の目安とするための「防除のポイント」を作成しております。今年も、2026年の防除のポイントを作成しましたので、皆様にご紹介します。

「新防除のポイント」

今月の技術情報は、日星の2026年版防除のポイント（防除暦）の紹介です。水稻では、一発型除草剤や後期除草剤の一部を新しい薬剤に入れ替えました（ゼータジヤガージャンボ、1キロ粒剤、カウンシルエナジー、銀河α等）。みかんでは、製造が中止されたり、流通経路が変更になったことにより、いくつかの薬剤に入れ替わりました（スクレアフロアブル、テルスター水和剤、ミネトエクストラSC他）。茶では、流通経路の変更により入手が困難になった薬剤（ナリアWDG、ガンバ水和剤、コテツフロアブル、オトリーソンフロアブル等）を入れ替えました。

「2月の病害虫」

病害虫防除所の2月予報によると、たまねぎでネギアザミウマがやや多、いちごでアザミウマ類、ハダニ類が中遠地域でやや多の予想です。

令和8年1月20日

気象予報 '26-02

東海地方3か月気象予報

名古屋地方気象台発表

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年より少ない確率が40%です。

● 月別の予報

2月：平年に比べ晴れの日が多い予想。平年並または少ない確率ともに40%です。

3月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年より高い確率が50%です。

4月：天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。

予報の区分	気温			降水量		
	低い	平年並	高い	少ない	平年並	多い
3か月	20	30	50	40	30	30
2月	30	30	40	40	40	20
3月	20	30	50	40	30	30
4月	10	30	60	30	40	30

病害虫発生予察情報(2月予報)

令和 8 年 1 月 27 日
静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

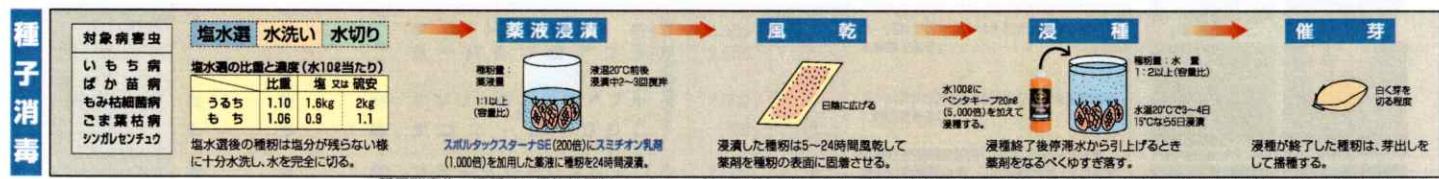
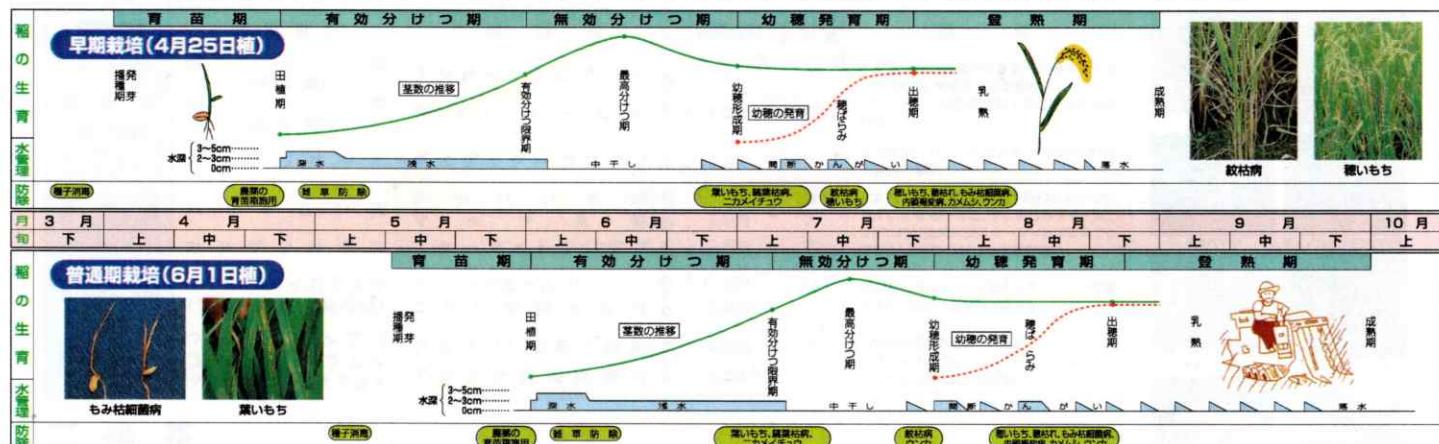
作物名	病害虫名	予 報 (2月の県平均平年値)	予 報 の 根 拠
トマト	葉かび病・ すすかび病	発生量:少 (発病株率6.5%)	1月中下旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:低い (-) 降水量:少ない (-)
	灰色かび病	発生量:少 (発病株率6.9%)	1月中下旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:低い (-) 降水量:少ない (-)
	黄化葉巻病	発生量:少 (発病株率1.8%)	1月中下旬発生量:少 (-) コナジラミ類発生量:少 (-) 気象予報:気温:低い (-)
	コナジラミ類	発生量:少 (寄生株率8.5%)	1月中下旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:低い (-)
たまねぎ	腐敗病	発生量:少 (発病株率1.5%)	1月中旬発生量:少(発生なし) (-) 気象予報:気温:低い (-) 降水量:少ない (-)
	灰色腐敗病	発生量:並 (平年発生なし)	1月中旬発生量:並(発生なし) (±) 気象予報:気温:低い (-) 降水量:少ない (-)
	ネギアザミウマ	発生量(やや多) (寄生株率27.9%)	1月中旬発生量:やや多 (+) 気象予報:気温:低い (-) 降水量:少ない (+)
レタス (非結球レタスを除く)	べと病	発生量:やや少 (発病株率1.7%)	1月中旬発生量:少(発生なし) (-) 気象予報:気温:低い (+) 降水量:少ない (-)
	斑点細菌病	発生量:やや少 (発病株率3.1%)	1月中旬発生量:少(発生なし) (-) 気象予報:気温:低い (+) 降水量:少ない (-)
いちご	灰色かび病	発生量:少 (発病株率0.6%)	1月上旬発生量:少(発生なし) (-) 気象予報:気温:低い (-) 降水量:少ない (-)
	うどんこ病	発生量:並 (発病株率0.6%)	1月上旬発生量:やや多 (+) 気象予報:気温:低い (-)
	炭疽病	発生量:少 (発病株率1.1%)	1月上旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:低い (-)
	アザミウマ類	発生量:少 ただし、中遠(やや多) (寄生株率5.6%)	1月上旬発生量:やや少 (-) ただし、中遠:多 (+) 気象予報:気温:低い (-)
	アブラムシ類	発生量:少 (寄生株率1.7%)	1月上旬発生量:少 (-) 気象予報:気温:低い (-)
	ハダニ類	発生量:やや少 ただし、中遠(やや多) (寄生株率14.1%)	1月上旬発生量:並 (±) ただし、中遠:多 (+) 防除員からの報告:やや多～多 (+) 気象予報:気温:低い (-)

今月の防除(令和 8年 2月)

作物	時期	対象病害虫	使用薬剤	希釈倍数	使用時期	備 考
チャ	上～下	クワシロ カイガラムシ 赤焼病・もち病 カンザワハダニ	プルートMC フジドーLフロアブル 又はクプロシールド ダニゲッターフロアブル	1,000倍 500倍 1,000倍 2,000倍	1～3月 14日～ 前日～ 7日～1	散布は一番茶摘採30日前まで1回 散布量は1,000ℓ/10a
カンキツ	上～下	ヤノネカイガラムシ ミカンハダニ	ハーベストオイル	60倍 ～80倍	---	寒害をうけやすい園は3月に散布する。
イチゴ	上～下	うどんこ病 灰色かび病 角斑細菌病 ハダニ類 アザミウマ類 アブラムシ類	アフェットフロアブル 又はプロパティフロアブル アフェットフロアブル コサイド3000 コロマイト水和剤 モベントフロアブル ウララDF	2,000倍 3,000倍 2,000倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍	前日～3 前日～3 前日～3 --- 前日～2 前日～3	モレスタン水和剤(前日～2)3000倍も可。 散布翌日からミツバチの導入が可。 散布翌日からミツバチの導入が可。 散布翌日からミツバチの導入が可。
トマト	上～下	灰色かび病 葉かび病 コナジラミ類	セイビアーフロアブル20 アミスター20フロアブル カンタスドライフロアブル ディアナSC ペネビアOD	1,000倍 2,000倍 1,000倍 2,500倍 2,000倍	前日～3 前日～4 前日～3 前日～2 前日～3	アフェットフロアブル2000倍(前日～3)も可。 アミスター、カンタスは灰色かび病にも有効。 バリアード顆粒2000倍(前日～3)も可。 ウララDF2000倍(前日～3)も可。
レタス	上～下	腐敗病 灰色かび病 菌核病 ナモグリバエ	カッパーシン水和剤 又はスターナ水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル ダントツ水溶剤	1,000倍 2,000倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍	7日～4 7日～2 7日～2 前日～3 前日～2	カンタスは菌核病にも有効。 アフェットは灰色かび病にも有効。
ダイコン	上～下	白さび病 コナガ アブラムシ類	ランマンフロアブル スピノエース顆粒水和剤 又は アファーム乳剤 ダントツ水溶剤 又は アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍 2,500倍 1,000倍 2,000倍 2,000倍	3日～3 7日～3 7日～3 7日～2 7日～2	ライメイフロアブル2000倍(7日～4)も可
タマネギ	上～下	白色疫病 腐敗病 ネギアザミウマ	ホライズンドライフロアブル バリダシン液剤5 アドマイヤー顆粒水和剤 又は ディアナSC	2,500倍 500倍 5,000倍 2,500倍	3日～3 3日～5 14日～2 前日～2	

2026年 水稻の病害虫・雑草防除のポイント

—病害虫・雑草の発生に対応した適正防除を省力的にしよう—



*稲子消毒後の浸種時に機能性肥料ペントカーフィー(5,000倍)を加えると、種粉の出芽勢、根張り、均一性が向上。出穗期に使用すれば収量増加も期待されます。

育苗期病害虫防除	使用方法・病害虫名		薬剤名	使用時期・使用方法		
	育苗資材消毒(播種前)	イチバン		育苗箱をイチバンの500~1,000倍液に瞬時浸漬又は散布する	播種後	500~1,000倍液
	育苗箱底土灌注 苗立枯病(フザリウム菌、ビシウム菌) (リゾーブス菌)	タチガレースM液剤 ダコニール1000	は播種後又は発芽後 は播種時	500~1,000倍液 1,000倍液	500ml/箱を土壤灌注 1,000ml/箱を土壤灌注	500~1,000倍液
	農薬の育苗箱施用 ウツカ類、ツマグロヨコバイ、イネミズソウムシ、 イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、 イネツトムシ、フタオビコヤガ いもち病、紋枯病、白葉枯病、内頸褐変病、もみ枯 細菌病、穂枯れ(ごま葉枯病)	●害虫といもち病 スタウトアレス箱粒剤 ヨーバリUG箱粒剤 ●害虫といもち病・紋枯病 スタウトアレスモンガレス箱粒剤 ヨーバリパワー-EV箱粒剤	は播種時(覆土前)~移植当日 は播種時(覆土前)~移植当日	50g/箱を均一散布、 50g/箱を均一散布	は播種前 50g/箱を床土又は覆土に均一混和 は播種時(覆土前)~移植当日 50g/箱を均一散布	は播種前 50g/箱を床土又は覆土に均一混和 は播種時(覆土前)~移植当日 50g/箱を均一散布

雑草防除	畦畔除草剤		一発型除草剤		(①使用時期の□は田植日、一は田植前の日数、+は田植日の日数。②使用時期の*は収穫前日数)							
	剤型	薬剤名	使用時期	使用量(10a)	剤型	薬剤名	使用時期(ヒ工)	使用量(10a)	区分	薬剤名	使用時期(ヒ工)	使用量(10a)
	粒剤	カソロン粒剤4.5	秋冬期	6~15kg	ジャンボ剤	ゼータジャガー	+3~(4.0)+30	20g×10袋	ヒ工剤	トドメMF乳剤	+14~(7.0)*50	200ml/water 25~1000
	水和剤	カーメックス顆粒水和剤	播種発生前 播種後~播種後 (1ヶ月後30日前~2)	150~200g/25~300g 150~200g/70~100g		カウンシルエナジー	+0~(3.5)+30	40g×10袋		グランクロスZ粒剤	+14~(4.0)*80	1kg
	初期除草剤				1キロ粒剤	ゼータジャガー	+3~(3.0)+30	40g×10袋		トドメバズMF液剤	+15~(6.0)*50	1,000ml/water 70~1000
	剤型	薬剤名	田植前	使用量(10a)		カウンシルエナジー	+0~(4.0)+30	1kg		ゲバートギア粒剤	+14~(4.0)*80	1kg
	乳剤	デルカットエリジョン	播種時~-4 播種後~-7	500ml 300ml		アピログロウMX	+0~(3.0)+30	1kg		モグトン粒剤	—*45	2~3kg
	雑草防除の留意事項	(①使用時期の□は田植日、一は田植前の日数、+は田植日の日数。②使用時期の*は収穫前日数)										

本田病害虫防除	生育时期	病害虫名	薬剤名(希釈倍数・使用量)	備考	
				()内は10a当たり	
	幼穂形成期 /穂ばらみ期	紋枯病 いもち病 カメムシ類 ウコンカ	モンカットフロアブル1,000倍 パリダシン液剤5,000倍 ブランシングアブル1,000倍 アルパリン顆粒水溶剤2,000倍 エクシードフロアブル2,000倍	パリダシン剤やブランシング剤は もみ枯細菌病にも有効である	
	出穗10日前 /出穗期	カメムシ類 ウコンカ	キラップ粒剤(3kg) エクシードフロアブル2,000倍 アルパリン粒剤(3kg)	散布週期は出穗10日前~出穗期 散布週期は出穗10日前~出穗期 散布週期は出穗前日~出穗7~10日後	
	出穗期 /乳熟期	穂いもち 穂枯れ カメムシ類 ウコンカ	ブランシングアブル水和剤500倍	ブランシング剤は、もみ枯細菌病 内頸褐変病にも有効である	

臨時防除病害虫	病害虫名	薬剤名	使用方法等	備考	
				1回	2回
	スクミリンゴガイ	ジャンボたにしづん	粒剤では1~2kg/10aを撒布する。1回~2回		
	トビイロウカ	トレボン乳剤	1,000~2,000倍液	14日~3回	
		エクシードフロアブル	2,000倍液	7日~3回	
	コブノメイガ	ディアナSC	4,000~6,000倍液	7日~2回	

ドローン防除	使用時期	薬剤名	
		初期除草剤	中後期除草剤
	初期除草剤	ゼータプラス200FG、天空エアーワーク	
		流星エアーワーク	
		アピログロウMXエアーワーク	
		エリジョンEW乳剤	
		カウンシルコンプリートフロアブル	
	中後期除草剤	グバートエアーワーク	
		ウルティモZ350FG	
	(殺虫剤)	キラップフロアブル	
		トレボンスターフロアブル	
		エクシードフロアブル	
		スタークリメイト液剤10	
	本田防除	キラップフロアブル	
		トレボンスターフロアブル	
		エクシードフロアブル	
	(殺菌剤)	モグトン粒剤	
		モンカットフロアブル	
		トライフロアブル	
		フジワランラップ粒剤(殺虫殺菌剤)	

(注) 写真出典：静岡県植物防疫協会「写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック」

ドローンは薬剤散布だけでなく、施肥や直播もできて、短時間で効率的です。

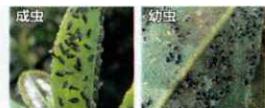


2026年 茶病害虫防除のポイント

—病害虫をよく観察して適正防除に努めましょう—

一 番 茶

防除時期	病害虫名	薬剤名	希釈倍数	摘採までの日数	備考
萌芽前 (2~3月)	赤焼病 (感染期) もち病 (越冬菌)	フジドーレフロアブル クブロシールド	500倍 何れか	14日前	赤焼病は傷口感染のほかに氣孔感染をするので、葉裏に薬液を十分散布する。ブルートMCの散布前後1週間に散布をさける。
	カンザワハダニ	ダニゲッターフロアブル	1,000倍	7	ダニコングフロアブル2,000~4,000倍(7日)も有効である。
摘採後 (5上~下)	ハマキムシ類	テツバソ液剤 マツチ乳剤	何れか	3 7	ミルベノック乳剤1,000倍(7日)もカンザワハダニに有効である。サビダニやチャノホコリダニの発生時にはスマートプラスフロアブル1,000倍(14日)も有効である。
	カンザワハダニ	スターマイトフロアブル	2,000倍	7	
5月中~下旬	クワシロカイガラムシ (ブルートMC無散布園)	アプロードエースフロアブル コルト顆粒水和剤	何れか	14 7	展着剤のスカッシュ又はミックスパワーを加用すると薬剤の付着性が高まる。
隨時防除害虫	ウンカ・スリップス コミカンアブラムシ ツマグロアオカスミカメ	アルバリン顆粒水溶剤 アクタラ顆粒水溶剤	何れか	7	1番茶の新芽の加害に注意する。 ※アクタラのコミカンアブラムシ、カスミカメに対する希釈倍数は3,000倍
			2,000倍	7	
			2,000倍*	7	



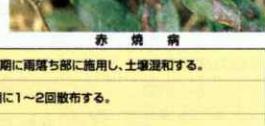
二 番 茶

萌芽期 開葉期 (5下~6上)	ウスリツブス チャノホソガ	カントツ水溶剤 ヨーバルフロアブル	何れかと混用する	2,000 2,500	7 7	ヨーバルフロアブルはナガチャゴネ成虫にも有効である。
	炭疽病 もち病	オンリーワンフロアブル ダコニール1000	又は	2,000 700	7 10	スクレアフロアブル2,000倍(3日)も左記病害に有効である。
摘採後 (6中~7中)	輪斑病	アミスター20フロアブル		2,000	14	機能性展着剤は加用しない。アミスターは二番茶の萌芽期以降、二番茶の摘採14日前までの間の防除もできる。
	ハマキムシ類	サムコルフロアブル10 ウンカ・スリップス オルトラン水和剤		2,000 1,000	3 45	サムコルフロアブルはチャノホンガ、ヨモギエダシャクにも有効である。 テルスター20フロアブル3,000倍(14日)もウンカ・スリップスに有効である。



三番茶(非摘採)・秋冬番(摘採)の茶園

三番茶 萌芽期	ウンカ・スリップス チャノホソガ・ヨモギエダシャク 新梢枯死症 炭疽病・もち病 褐色円星病 クワシロカイガラムシ	ウララD F ディアナSC	混用	1,000 5,000	7 前日	ディアナはハマキムシ類・チャノキイロアザミウマにも有効である。
	フロンサイドSC ダコニール1000	何れか		2,000 700	14 10	新梢枯死症及び褐色円星病の多発園では萌芽期と2~3葉展開期の2回、剤を替えて散布する。
	アプロードエースフロアブル			1,000	14	展着剤のスカッシュ又はミックスパワーを加用すると薬剤の付着性が高まる。
生育期	ウンカ・スリップス チャノホソガ・ヨモギエダシャク 炭疽病・もち病 褐色円星病	グレーシア乳剤 スコア顆粒水和剤	混用	2,000 2,000	14 7	グレーシアはチャノホコリダニ、チャノナガサビダニにも有効である。
8月上~中旬	ハマキムシ類	アファーム乳剤		2,000	7	褐色円星病の防除週期は硬化初期である。
	ウンカ・スリップス	エクシエルSE		2,000	7	フェニックスフロアブル2,000倍(7日)、チューンアップ顆粒水和剤2,000倍(前日)もハマキムシ類に有効である。
秋芽萌芽期 生育期	ウンカ・スリップス 炭疽病・もち病 褐色円星病	ハチハチ乳剤 インダーフロアブル		1,000 5,000	14 7	ハチハチ乳剤はチャノホコリダニやチャノナガサビダニにも有効である。 チャノホンガの発生の多いときはマッチ乳剤2,000倍(7日)が有効である。
	カンザワハダニ チャノホコリダニ	アグリメック		1,000	7	アグリメックはチャノキイロアザミウマ、チャノホンガにも有効である。
秋整枝後	ハマキムシ類 カンザワハダニ 赤焼病	トクチオニ乳剤 コサイド3000		1,000 500	21 14 14	赤焼病は傷口感染と気孔感染をするので葉裏まで薬液を十分散布する。台風の前、又は通過後早く散布する。
11月上~中旬 (越冬前)	カンザワハダニ	ハーベストオイル スプレーオイル	何れか	100 100	※ ※ ※	*発芽前又は摘採直後 **10月~3月 どちらもチャトゲコナジラミにも有効である。
随时防除 害虫	ナガチャコガネ 灰色かび病 マダラカサハラハムシ チャトゲコナジラミ	フォース フロンサイドSC エクシエルSE コテツフロアブル ダントツ水溶剤	9g/10a 2,000 2,000 2,000 2,000	7 14 7 7		フォースは5月下旬~6月の成虫飛来初期~孵化幼虫期に雨落ち部に施用し、土壌混和する。 11月~1月が越冬・多雨・花が多いと多発する。開花期に1~2回散布する。 被害が多いのは9~10月頃だが、5~6月頃に被害が見られることもある。 8月中旬~下旬頃、被害が見られ始めたら薬剤を散布する。



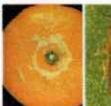
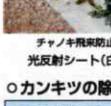
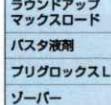
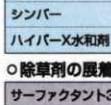
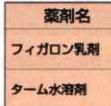
(注) ハマキムシ類はチャハマキ、チャノコカクモンハマキ、ウンカはチャノミドリヒメヨコバイ、スリップスはチャノキイロアザミウマである。

写真出典: マダラカサハラハムシは静岡県病害虫防除所 内山徹氏

チャトゲコナジラミは静岡県植物防疫協会「写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック」

2026年 みかん病害虫・雑草防除のポイント

— 病害虫・雑草の発生に対応した適正防除を省力的にしよう —

防除時期	対象病害虫	使用薬剤	希釈倍数	使用基準	備考	
12月下旬～1月中旬 又は3月	カイガラムシ類 ミカンハダニ	ハーベストオイル	60倍	----	マシン油は十分な散布量を確保する。 かいよう病の越冬病斑が多い場合は3月中旬(発芽前)に銅水和剤500倍を散布する。ただし、マシン油とは間隔を14日間空ける。	 そうか病  灰色かび病
4月中下旬	ミカンハダニ カイガラムシ類	スプレー油 混用 アプロードフロアブル	100倍 1,000倍	14日～3	冬季にマシン油を散布しなかった圃はこの時期に散布する。	 黒点病  かいよう病
	そうか病	フロンサイドSC	2,000倍	30日～1	そうか病は展葉期に散布する。	
5月中下旬	灰色かび病 そうか病 ケシキスイ コアオハナムグリ	ナティーポフロアブル 又は カナメフロアブル	2,000倍	前日～3	灰色かび病は花弁落葉期の初期に防除する。 薬剤は花を中心で散布する。 ケンジャフロアブル1,500倍(7日～3)もそうか病・灰色かび病に効果がある。	 褐色腐敗病  温州萎縮病
6月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ	ジマンダイセン水和剤 ダントツ水溶剤 又は グレーシアフロアブル	800倍 2,000倍 4,000倍	30日～4 前日～3 7日～2	黒点病菌は枯枝に生存しているので6～7月に枯れ枝を切削し埋没する。 ダントツはコナカイガラムシ類にも効果がある。 アドマイヤ顆粒水和剤もチャノキイロアザミウマ及びゴマダラカミキリに効果がある。	 青かび・緑かび病  黒腐・黒腐・白かび病
下旬	ヤノネカイガラムシ	モベントフロアブル 又は トランスクームフロアブル	2,000倍 1,000倍	7日～3 前日～3	ヤノネカイガラは2令幼虫最多寄生期に防除する。 モベントやトランスクームはコミカンアブランシにも効果がある。	 成虫  ミカンハダニ
7月上旬	黒点病 チャノキイロアザミウマ ミカンサビダニ	ベンコゼブ水和剤 アグリメック	800倍 2,000倍	30日～4 7日～3	7月株間を白色の光反射シートで被覆するとチャノキイロアザミウマの被害を低減できる。 炭酸カルシウム微粉末剤を6・7月に散布するとチャノキイロアザミウマに効果がある。	 成虫体長約35mm ゴマダラカミキリ
下旬	ミカンハモグリガ ヨモギエダシャク 黒点病 口ウムシ類 チャノキイロアザミウマ	エクシレルSE 又は ミネクトエクストラSC ジマンダイセン水和剤 アクタラ顆粒水溶剤 キラップフロアブル	5,000倍 10,000倍 800倍 2,000倍 2,000倍	前日～3 21日～1 30日～4 14日～3 21日～2	エクシレルSEはチャノキイロアザミウマやゴマダラカミキリ成虫にも効果がある。 ミネクトエクストラSCはチャノキイロアザミウマ、ミカンサビダニ、ゴマダラカミキリ成虫にも効果がある。 夏期はミカンハダニの天敵保護につとめるが、7月にミカンハダニが発生したらカネマイドフロアブル1,000倍(7日～1)を追加散布する。	 成虫  ワタアブラムシ ユキナギアブラムシ アブラムシ類
8月中下旬	チャノキイロアザミウマ カイガラムシ類	アルバリン顆粒水溶剤 又は コルト顆粒水和剤	2,000倍 3,000倍	前日～3 前日～3	ハチハチフロアブル2,000倍(前日～2)もチャノキイロアザミウマに効果がある。 台風の襲来があり、かいよう病の発生が心配される場合はバリダシン液剤5の500倍(7日～4)を散布する。	 成虫  チャバアオカムシ チャバアオカムシ
9月中旬	黒点病	ベンコゼブ水和剤	800倍	30日～4		 天敵生態 ナガナタガヤ草生
10月中旬～以降収穫期まで	ミカンハダニ 黒点病	スターマイドフロアブル ナティーポフロアブル	2,000倍 1,500倍	7日～1 前日～3	ハダニが見られるなら防除する。 貯蔵病害にも効果がある。	 ○カンキツの除草剤(使用法、10a当たり)
収穫期	貯蔵病害(青かび・緑かび・黒腐病・灰色かび病・黒腐病・白かび病)	ベンレート水和剤 混用 ベルクートフロアブル	4,000倍 1,000倍	前日～4 前日～3	11月下旬～12月上旬に貯蔵予措を行う。	 ○除草剤の混着剤(使用法)
冬季					せん定時に越冬病斑は除去する。	 ○みかんの植調剤(使用法は、圃場ごと使用目的により異なる)
I P M 実践技術	生物的	・灰色かび病にパチレス・ズブリス製剤を使用する。 ・ミカンハダニに土壌天敵を活用する。 ・カイガラムシ類に近隣のほ場から天敵を導入する。	物理的	・かいよう病対策に防尾ネットを整備する。 ・ゴマダラカミキリの産卵防止に株元に金網又は園芸用鉢底ネットを巻き付ける。 ・チャノキイロアザミウマに対し白色の光反射シートを7月～9月に敷く。	耕種的	 ○薬剤名 フィガロン乳剤 ターム水溶剤 ジベレリン液剤 混用 ジャスマート液剤

(注)写真出典：害虫は、静岡県植物防疫協会「写真で見る農作物病害虫診断ガイドブック」、病害と栽培は、元静岡県柑橘試験場太田光輝氏撮影による。

ドローンによる薬剤散布は、短時間で効率的です。
ドローンで散布できる薬剤も増えています。



ドローン防除	殺虫剤	殺虫剤
	ダンツツ水溶剤、モベントフロアブル、スミチオン乳剤、アドマイヤフロアブル、コルト顆粒水和剤、ダニゲッターフロアブル、ダニコングロアブル、エクシレルSE、ミネクトエクストラSC	
	ベンレート水和剤、ナティーポフロアブル、トップジンMソル、ジマンダイセン水和剤、ベルクートフロアブル、パレード15フロアブル、ICボルドー660	